



2022年3月末の預金・貸出金動向（速報）

— 信用金庫の21年度中増減率は預金2.1%増、貸出金0.4%増 —

井上 有弘

ポイント

- 2022年3月末の全国254信用金庫の預金残高の合計は158.8兆円、前年同月比2.1%増となった。貸出金は78.8兆円、同0.4%増となった。いずれも年度末ベースで過去最高額を更新した。
- 22年3月末の銀行110行の預金残高の合計は880.1兆円、前年同月比3.0%増となった。貸出金は543.5兆円、同1.2%増となった。都市銀行の貸出金は、11か月ぶりに増加に転じた。

1. 信用金庫の預金・貸出金

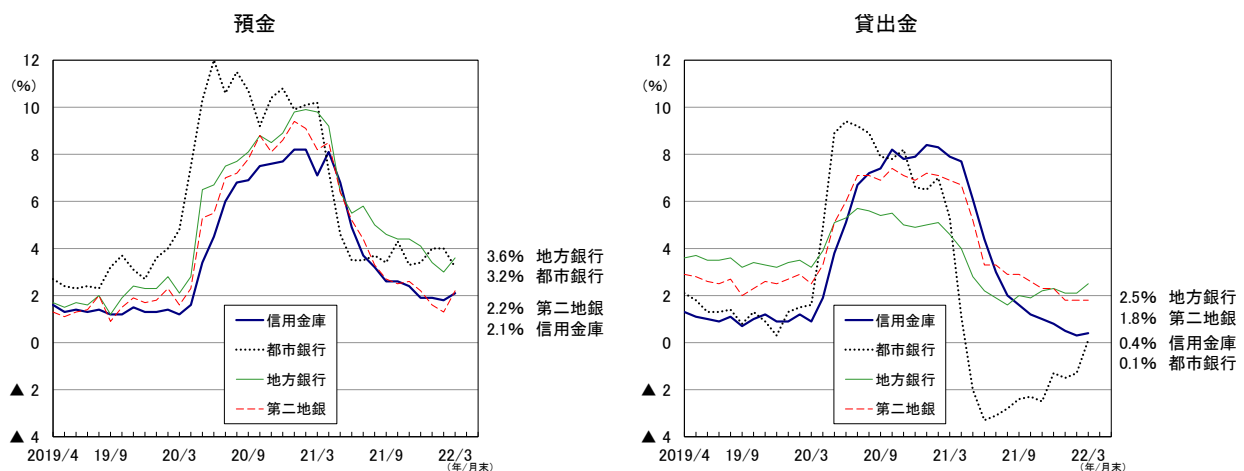
2022年3月末の全国254信用金庫の預金残高の合計は158.8兆円、前年同月比2.1%増となった。貸出金残高の合計は78.8兆円、同0.4%増となった(速報値¹)。預金、貸出金とも年度末ベースで過去最高額を更新した。2020年度はコロナ禍の資金繰り支援で預金、貸出金とも急増したが、21年度に入ると増加率は低下傾向で推移してきた(図表1)。ただし、年度末となる22年3月末の増加率は、前月の2月末(預金同1.8%増、貸出金同0.3%増)に比べてやや上昇している。

年度末にかけては、3月21日にまん延防止等重点措置が全国で解除され、感染者数も減少傾向にあった。一方で、ウクライナ情勢の深刻化を受けて、原油などエネルギー価格、穀物・食料品価格が上昇した。信用金庫取引先の中小企業でも、原材料・仕入価格の上昇によって7割超の企業が何らかの悪影響を受けている²。このため、十分に価格転嫁できていない食料品製造業などで、年度末資金を厚めに確保する動きがあったと考えられる。また、預金増加の要因として、1月末に申請が始まった事業復活支援金³の給付が進み、法人、個人事業主の預金口座に流入した影響がある。

2. 銀行の預金・貸出金

全国銀行協会公表の速報によると、22年3月末の全国銀行110行の預金残高の合計は880.1兆円、前年同月比3.0%増となった。貸出金残高の合計は543.5兆円、同1.2%増となった。業態別にみると、都市銀行の貸出金は、21年4月末以来11か月ぶりに増加に転じた(図表2)。

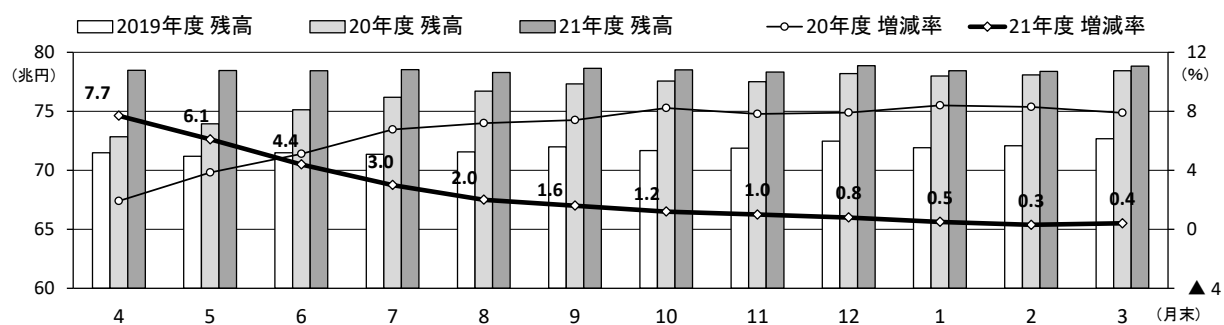
(図表1) 業態別の預金・貸出金動向(前年同月末比増減率)



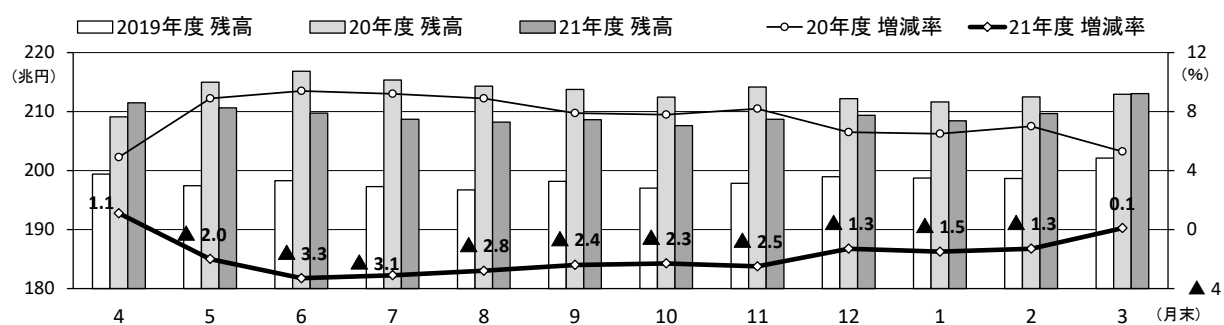
(備考) 全国銀行協会「全国銀行預金・貸出金等速報」などより、信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

(図表2) 月別にみた業態別貸出金動向 (2019年4月~22年3月末までの残高、前年同月比増減率)

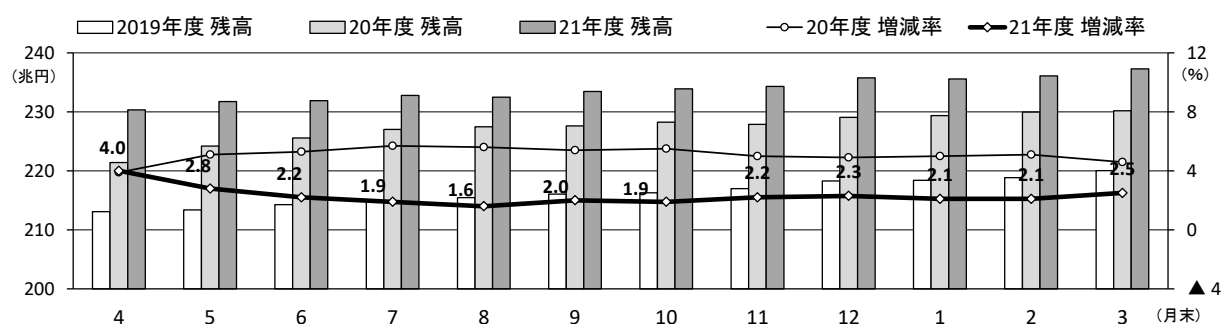
信用金庫



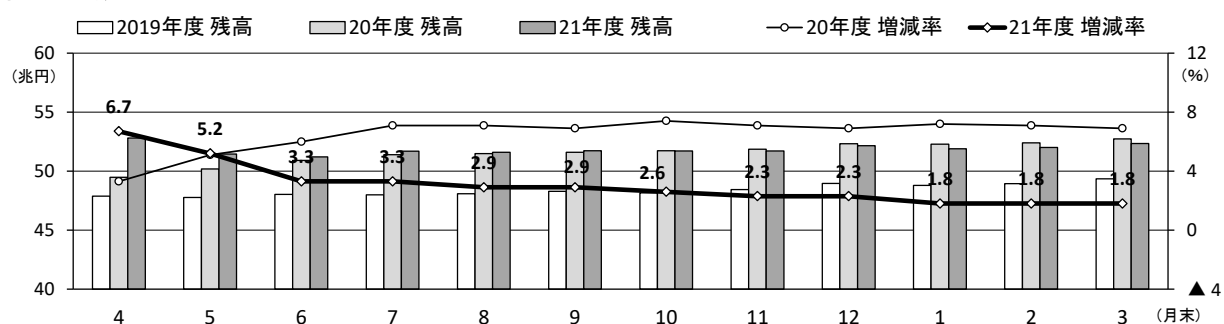
都市銀行



地方銀行



第二地方銀行



(備考) 全国銀行協会「全国銀行預金・貸出金等速報」などより、信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

以上

※「信用金庫地区別預金・貸出金(残高)」を信用金庫に還元しております。併せて、ご活用ください。

¹ 本稿の計数は、決算補正前計数を含む速報値のため、今後、更新される場合がある。

² 信金中央金庫 地域・中小企業研究所、『中小企業景況レポート (No. 1 8 7)』「1~3月期業況は4四半期ぶりに悪化【特別調査-原材料・仕入価格の上昇による中小企業への影響について】」(<https://www.scbrj.jp/keikidoukou.htm>) を参照

³ コロナの影響を受けた事業の継続・回復を支援するため中小法人に最大250万円、個人事業主に最大50万円を給付する支援金

本レポートは、情報提供のみを目的とした上記時点における当研究所の意見です。施策実施等に関する最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当研究所が信頼できると考える情報源から得た各種データ等に基づいて、この資料は作成されておりますが、その情報の正確性および完全性について当研究所が保証するものではありません。